

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-132	A-200	14-014
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
題名 (原題/訳)		
Gross motor deficits in children prenatally exposed to alcohol: a meta-analysis. 妊娠中の飲酒の影響を受けた子供における粗大運動能低下：メタ分析より		
執筆者		
Lucas BR, Latimer J, Pinto RZ, Ferreira ML, Doney R, Lau M, Jones T, Dries D, Elliott EJ.		
掲載誌		
Pediatrics. 2014 Jul;134(1):e192-209. doi: 10.1542/peds.2013-3733. Review.		
キーワード		PMID
飲酒、飲酒関連神経発達障害、胎児性アルコール多様障害、運動能		24913787
要 旨		
背景： 粗大運動能低下は妊娠中の飲酒の影響を受けた小児にしばしば見られるが、この関連は十分に検討されているとは言い難い。本研究の目的は、メタ分析を用いて、胎児性アルコール多様障害(FASD)の診断または妊娠中の中一高度飲酒の暴露と生後の粗大運動能低下との関連について検討することである。		
方法： Medline, Embase, Allied and Complementary Medicine Database, Cumulative Index to Nursing and Allied Health Literature, PsycINFO, PEDro, and Google Scholar database を検索し、メタ分析によるシステマティックレビューを行った。文献は FASD の診断、妊娠中に中一高度の飲酒暴露、または母親がアルコール依存である 18 歳以下の未成年を対象とし、かつ、標準化された方法で粗大運動能低下を評価している観察研究とした。		
結果： 2,881 の文献を調査し、上記の基準を満たす 14 文献を分析対象とした。対象者年齢は生後 3 日から 13 歳であった。研究の限界としては、粗大運動能低下の cutoff point が不明瞭、妊娠中の飲酒暴露について標準化された方法で評価されていない、サンプルサイズが小さい、等が挙げられた。メタ分析の結果、FASD および妊娠中の中一高度飲酒は粗大運動能低下と有意に関連していた (オッズ比 2.9、95%信頼区間 2.1-4.0)。粗大運動の低下は、特にバランス運動、協調運動、ボールの扱い時に認められた。粗大運動能低下の有病率を検討するにはデータが不十分であった。		
結語： 本研究の結果から、FASD 診断における標準評価項目として、粗大運動能に関する評価も組み込むべきであることが示唆された。		